

第 2 章

氣 象

第 2 章 気 象

概況(平成15年)

1 月

上旬は冬型の気圧配置となる日が多く、気温はかなり低くなった。中旬は冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変化した。下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置が強まった。

2 月

上旬前半は上空の寒気の影響で気温の低い日が続いた。後半は南海上に中心を持つ高気圧に覆われるなど暖かい空気が流れ込んだため気温は平年に比べ高くなった。中旬前半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。後半は日本の南岸を中心に低気圧や前線が次々と通り、天気は短い周期で変化した。下旬は日本の南岸を中心に低気圧や前線が次々と通り、天気は短い周期で変化した。

3 月

上旬から中旬は低気圧の通過後に一時強い冬型の気圧配置となり、寒気の影響を受けて気温は平年を下回る日が多くなった。下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温は平年を上回った。

4 月

低気圧が日本の南岸や日本海を短い周期で通過したため、曇りや雨の日が多くなった。上旬は、低気圧の通過後寒気の影響で気温が平年を下回る日があり、寒暖の変動が大きくなった。中旬いこうは日本海を通過する低気圧に吹き込む南風などの影響で月平均気温は平年に比べ高くなりました。25日には大阪で今年初めての夏日となった。

*夏日：日最高気温が25度以上の日

5 月

上旬は前半を中心に高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温は高くなり、大阪では5日に今年初めての真夏日となった。中旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。下旬は天気は周期的に変わり、31日には台風第4号の影響で全般に雨となった。

*真夏日：日最高気温が30度以上の日

6 月

上旬は低気圧や台風第5号の影響で曇りや雨となる日があったが影響は少なく、高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。近畿地方は10日頃梅雨入り(平年6月6日頃、昨年6月11日頃)し梅雨入り以降は梅雨前線が日本の南岸に停滞することが多く、曇りや雨の日が多くなった。

7 月

月を通してオホーツク海高気圧の勢力が強く、冷たい気流の

影響を受けた。このため月平均気温はかなり低く、7月としては統計開始以来、第2位の低い値となった。また、太平洋高気圧の北への張り出しが弱かったため、梅雨前線が本州上や南岸に停滞することが多く曇りや雨の日が多くなった。このため日照不足の状態が続いた。

8 月

上旬前半は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなったが、その後は台風第10号の影響で天気は大きく崩れた。中旬はオホーツク海高気圧が勢力を強めたため前線が日本の南岸に停滞し、曇りや雨の日が多くなった。下旬前半はオホーツク海高気圧が勢力を弱めたため、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。後半には再び前線が南下し、日本付近に停滞したため曇りや雨の日が多くなった。なお、近畿地方の梅雨明けは平年に比べてかなり遅くなり、8月1日頃に梅雨明け(平年7月19日頃、昨年7月20日頃)した。

9 月

高気圧に覆われて晴れる日が多く、月間日照時間の最大値を更新した。24日から25日にかけては、気圧の谷の影響で、局地的に一時強い雨が降り、北部を中心に大雨になった。

10 月

上旬は高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。6日は気圧の谷が通過後、強い寒気が入ったため、11月上旬頃の冷え込みになった。中旬の前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。13日の朝、低気圧が通過したため、南部を中心に雷を伴った激しい雨が降った。後半は高気圧に覆われて晴れた。下旬は天気が短い周期で変わり、晴れる日が多くなった。

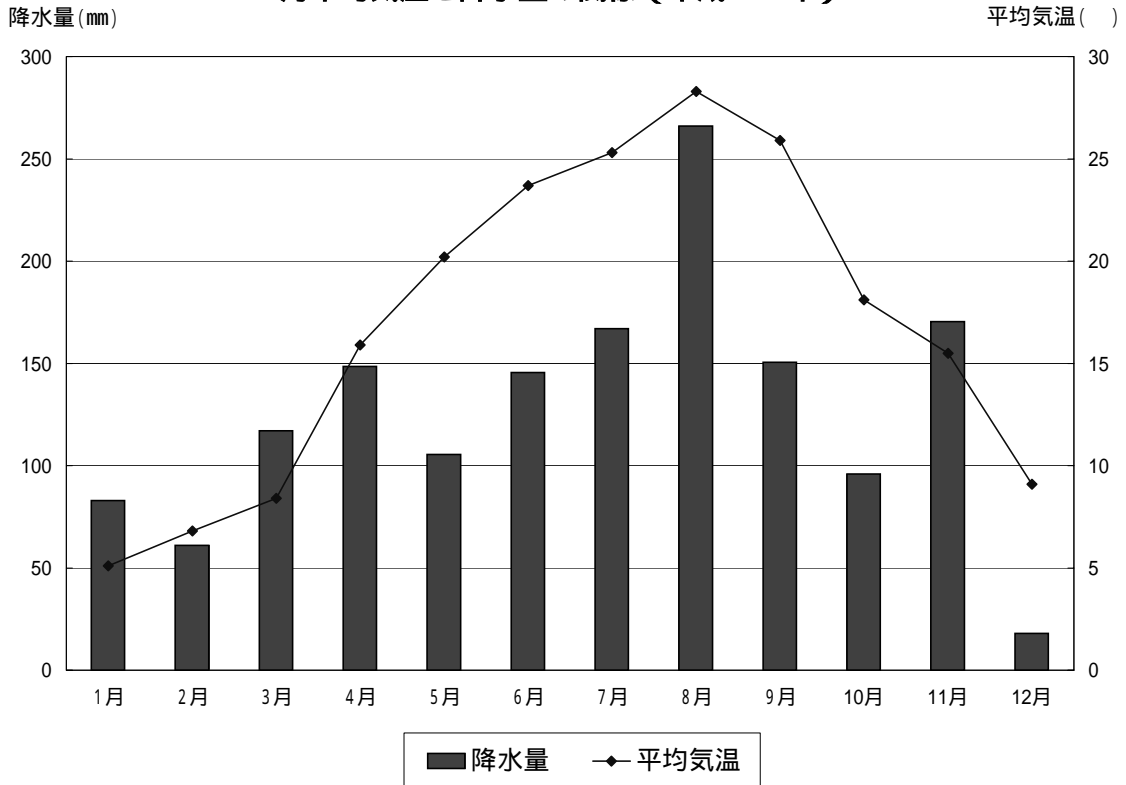
11 月

上旬は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。中旬は低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。下旬は期間の初めは冬型の気圧配置となった。24日午後と25日午前には低気圧の影響で大雨となり、その後も低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。

12 月

上旬は1日と6日に前線や低気圧の影響で雨が降った。その他の日は晴れる日が多くなった。中旬は11日に日本海と日本の南岸を低気圧が通過し天気が崩れたが、その後は冬型の気圧配置となりやすく、15日に初霜(平年より16日遅く、昨年と同じ)を観測した。また、20日には初雪(平年より6日早く、昨年より6日早い)と初氷(平年より9日遅く、昨年より5日遅い)を観測した。下旬は冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。

月平均気温と降水量の関係（平成15年）



月別日照時間（平成15年）

